

デイサービス施設でベルマーク仕分け

大阪・岸和田の「かけはし」、社会貢献がテーマ

ベルマーク収集・仕分けを始めとした社会貢献活動に取り組むデイサービスが7月1日、大阪府岸和田市にオープンしました。その名も「社会貢献型デイサービスかけはし」。南海本線・岸和田駅から歩いて3分ほどの場所にあり、鮮やかな緑色の看板が目印です。

通所型サービスAに分類され、介護保険の事業対象者や要支援者向けの短時間型デイサービスです。介護認定を受けていない方も相談のうえ参加可能だそうです。紙すきから始めるハガキ作り、カラオケ・笑いヨガ・体操など、思い思いの時間を過ごすことができる憩いの場です。老老介護の疲れを癒すなど、レスパイト(「息抜き」といった意味合い)的な役割も担っています。

特徴は、「社会貢献」をテーマにしていること。ドアを開けると、玄関には赤い「ベルマーク回収箱」や「一覧表」、使用済み切手の回収箱、赤い羽根共同募金の募金箱が置かれていました。他にペットボトルキャップや使用済み乾電池なども集めているそうです。

この日は10人ほどがマークを仕分けしていました。「メガネをかけてないから難しいわあ」「ベルマークって昔よう聞いたわ」「こんなん初めて知った」……。そんなことを言いながらも、着々と会社別に分けていきます。

代表を務める植野高志さんは以前、老人保健施設で働

いていました。「機能訓練で折り紙とかをしましたが、終わったら捨ててしまうんですね」と当時を振り返ります。それを悲しく思い、自分の職歴を活かしながら「次につながる何か」を生み出すことを考えました。

また、「普段はポイと捨ててしまうものを、『かけはしが集めているからとっておこう』と意識することは、認知症予防のひとつになる」と考えています。「さらに支援につながるんだから『一石三鳥』ですよ!」

植野さんはロゴやイラストの製作もしています。趣味の延長とのことですが、そのクオリティはかなり高く、本を出版したことがあるほどです。施設内にはあちこちに作品が飾ってありました。

課題は「マークを集めたら何の役に立つのかという認識の不足や、マークが小さくて高齢者には分かりづらいこと」などだそうです。「私がしていることは、まだ実験的なものですが、今後はよりよい未来への、新しい支援の道になると期待しています」と展望を語りました。

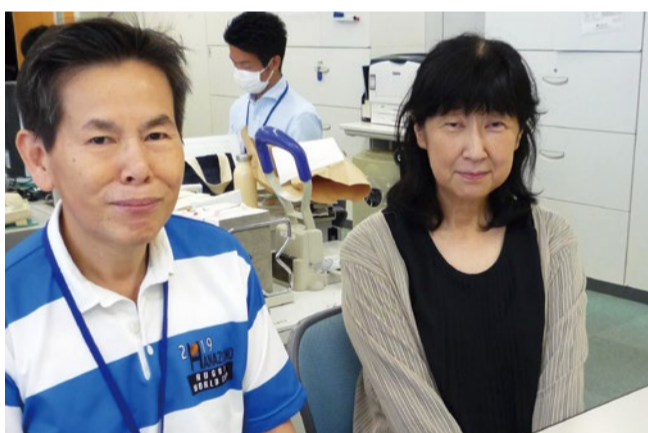
- ①この日は10人ほどがマークの仕分けをしていました
- ②使い終わったたまごのバックを再利用
- ③玄関には赤い「ベルマーク回収箱」や「一覧表」、使用済み切手の回収箱、赤い羽根共同募金の募金箱
- ④手作りの大きな仕分けパネル



「一度、アクセルを踏み直したい」と前向きに捉えてくださっています。

釜木さんと一緒に

釜木さんは「協賛会社別のウォールポケットを置いたらどうか」と提案。さらに「次の仕分けの際には私を呼んでください。コツを伝授します。同志として頑張りましょう」と話しました。



2004年の新潟県中越地震で、被災した旧山古志村の小・中学校への援助にベルマークが使われたと知って感動し、涙が出そうになったといいます。以来、釜木さんの「布教活動」が始まりました。

2018年秋にベルマーク大使に任命された、釜木尚美さん。毎日ツイッターで情報発信をし、精力的に活動をしています。アカウント名「ベル・ブック」としてつぶやく内容は、ベルマーク付き商品の紹介から、集計のコツまで、さまざまです。

東大阪市役所 訪問記 by ねろり

釜木さんが最初にベルマークと関わったのは「ベルマーク委員にあたってしまった」ことでした。「正直、イラっとしました。しかも『10枚ずつまとめる』というルールだった。その後、委員長になって初めて、明細さえ記入すればマークは貼らなくてもいいと知りました。今では、マークはバラバラのままの方が時間節約になると、「貼らなくてもいい」を周知させようとしています。

セイコーエプソンが45万点を寄贈

従業員らがインクカートリッジを収集

協賛会社のエプソン販売(ベルマーク番号73)の親会社にあたるセイコーエプソン(本社・長野県諏訪市)から7月24日、ベルマーク45万130点が寄贈されました。

同社の本社や子会社、事業所などの拠点で、従業員らが家庭で使った同社のインクカートリッジを集めて点数化しました。本社総務部の佐藤幸子さんがベルマ

ーク財団を訪れ、束になった点数証明書を高木文哉常務理事に手渡しました。

同社のインクカートリッジは、本社近くにあるエプソンミズベが集約・仕分け作業を担当しています。障がい者雇用に関するエプソンの特例子会社です。回収されたカートリッジは、プラスチックを再利用して、見学者に配布するボールペンになったり、他の製品の部品として

使われたりしているとのこと。

「今回お届けしたのは2016年ころから今年3月までに集めたもの。これからは、定期的にお届けしていきたいです」と佐藤さん。

インクカートリッジ回収の仕組みはエプソンの製品を対象に2004年から始まりました。いわばこの方式の「本家、からの、うれしいプレゼントでした。

